

# 上田ロケ映画 AWARD 2021 決まる！

## 上田ロケ映画紹介 (Vol. 1)

上原 昇 (2組)

信州上田フィルムコミッション (上田 FC) が設立 20 周年を機に、「上田ロケ映画 AWARD 2021」というイベントを開催し、投票の結果、“上田ロケ映画 No1” が決定した。

1 位は「兄消える」487 票、2 位は「サマーウォーズ」356 票、3 位「リスタートはただいまのあとで」(2020 年、井上竜太監督) 269 票という結果であった。

<http://uedafc.blog69.fc2.com/blog-entry-537.html>

上田市は昔から映画のロケや舞台になることが多い町として知られている。

その理由は、雨が少なく撮影 (ロケ) の効率が良いこと。車や電車 (新幹線) など交通の便が良いこと。明治以降の古い建造物が残っていること。そしてなにより、映画が好きな人が大勢いること。今、その中心になって活動しているのが上田 FC である。

### ▼ No1 は「兄消える」

1 位には「兄消える」が選ばれた。同作は 2019 年に公開された西川信廣監督の作品で、全編上田が舞台になっている。

主演は柳澤慎一、助演には高橋長英、土屋貴子、配給：エルファントハウス、ミュージックプランニング。

袋町ほか、上田の各所でロケがされており、地元では大きな話題となったと聞く。

映画の中での上田は地方都市の風情は感じられたが、ちょっと寂れた街だった。

87 歳にして 60 年ぶりの主演を演じた柳澤慎一は 1932 年生まれで、若いころは達者なボードビリオンとして人気を博した人だ。弟役の高橋と二人で良い味を出していた。

助演の土屋は丸子出身で、地元では有名人、信州上田観光大使を務めている。

<https://ani-kieru.net/>

上田でロケをした映画の詳細は上田 FC の HP を覗くと分かる。

<http://www.ueda-cb.gr.jp/fc/loca.html>

その中から、筆者が見て印象に残っている映画のうち 10 作を、2 回に分けて紹介していきたい。(ロケ場所については、上田 FC の HP から)

紹介映画のポスター写真などを添付したいところだが、HP に勝手に添付するのは著作権侵害の恐れがあるため (著作物の保護期間は 70 年)、映像を見たい方はネットで検索していただきたい。

### ▼ 上田ロケ映画 10 作紹介 (前篇)

01) 「一人息子」(1936 年、監督：小津安二郎、主キャスト：飯田蝶子、笠智衆、日守

新一、主ロケ場所：西塩田、笠原工業、配給：松竹キネマ)



映画「一人息子」の1シーン、  
写真保護期間 70 年超

戦前の古い映画なので、見たのはずっと後に池袋の名画座で。信州のある町（上田を特定していない）の紡績工場女工の母と息子のお話。親子の気持ちのすれ違いなどが哀しいが最後にほっとするのは、小津の後年の名作「東京物語」（1953 年）などに通ずるものを感じた。

- 02) 「水で書かれた物語」（1965 年、監督：吉田喜重、主キャスト：岡田茉莉子、入川保則、浅丘ルリ子、主ロケ場所：ほていや、上田丸子電鉄、配給：日活）  
筆者が高校 2 年の頃の映画で、当時、上田ロケが話題になっていて、上田高校校舎とグラウンドの間の道などがスクリーンに出てきた。石坂洋次郎原作の成人映画だったが、映画の中味より、ひっそりと中劇（上田日活、原町）へ見に行ったことを覚えている。吉田喜重の映画は今見ても、良く分からないと思う。  
当時、上田で発行されていた映画広告誌（チラシ）を見つけた。この「週刊映画」では、日活、大映、松竹、東映の上映作品を紹介していたようだ。  
洋画専門のニューパールは同様の「ニューパールふぁん」を出していた。



〈閑話休題〉

1960年代当時、上田市内には映画館が6館あった。映画会社別の系列になっていて、東映は電気館、松竹と大映は映劇、東宝はテアトル、日活は中劇、洋画（メジャー系）はニューパール、非メジャー系洋画とピンク映画などは東横といった具合に色分けされていたと思う。今はショッピングモール「アリオ上田」の一画で、シネマコンプレックス「TOHO シネマズ上田」が営業している。

ただ、映劇は2011年に定期上映を終了したが、その後も特別興行を行っている。創業大正6年というから100年以上の歴史を刻んでいることになる。

筆者も、6年ほど前、40年ぶりにこの劇場に足を運び、同窓生で映画監督の鶴岡慧子さん（105期）の作品「過ぐる日のやまねこ」を鑑賞した。

- 03) 「けんかえれじい」（1966年、監督：鈴木清順、主キャスト：高橋英樹、浅野順子、川津祐介、主ロケ場所：上田高校、上田城、配給：日活）

映画の中で主人公（高橋）が通う会津若松の中学校の校門に、何と母校の“古城の門”が使われていたのにはビックリした。誰が考えたのか？

古城の門



- 04) 「犬神家の一族」（1976年、監督：市川崑、主キャスト：石坂浩二、高峰三枝子、あおい輝彦、主ロケ場所：旧北国街道、上田蚕種、配給：東宝）

旧北国街道の下常田付近を探偵金田一が歩く場面は、映画の冒頭に出てくる。同期の小嶋修一君（10組）の家の目の前になる。

興味のある方は、ネット『ロケ地「犬神家の一族」長野県上田市』を。

<http://locationwalker.blog.fc2.com/blog-entry-121.html>

筆者の実家もこの近く（上常田）にあり、今も帰省時にはこの通りをよく歩く。

2006年、同じく市川崑監督、石坂浩二主演でリメイクされた作品でも、この場所が出てくる。

以上

以下は Vol. 2 で

（2021年6月22日記）